

1. 幼稚園の教育目標

子どもたちは、無限の未知なる可能性を秘めており、その可能性は幼児期の過ごし方で大きく左右される。本園は「生きる力」の基礎を育むことを大目標としている。生きる力の根源はやる気である。四季折々の子どもたちの体験活動を重視し、感動体験から湧き出るやる気（意欲）を発露させる保育を進める。

2. 平成29年度の重点

- ・ いきいきと活動し心豊かな子どもを育てる。
- ☆ 考える子ども…………… 工夫し創り出して遊ぶ
- ☆ 元気な子ども…………… 身体を存分に使って遊ぶ
- ☆ 感じる子ども…………… 自然に親しんで遊ぶ
- ☆ 仲よくする子ども…………… 思いやりをもってきまりを守って遊ぶ

3 評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	結 果	理 由
(1) 園の教育理念 教育方針	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本園の目指す方向を再確認しながら、教育・保育に努めた。 ・ 社会や地域の要請、園・子どもの実態に応じ教育理念・教育方針を設定し全教職員で共通理解する機会を持つことに努めた
(2) 教育課程・指導	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導計画の見直しに努め、学期ごとに子どもの活動及び姿を振り返り、各学年の状況や課題を確認し、子どもの実態に応じた保育が展開できるように努めた。 ・ 子ども一人ひとりの小さな伸びや成長を見逃さず認めるように心掛けた。同時に努力すべき項目にも目を向け、向上するよう見守ってきた。 ・ 園外保育や四季折々のそれぞれの行事のねらいを常に明確にし、また事後の振り返りを次に生かせるよう努めた。
(3) 保健管理	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康の大切さを子どもたちが理解しやすいように指導するとともに、年間を通してうがいと手洗いの徹底を図った。 ・ 日常の健康観察や疾病予防のための取り組み、定期的な健康診断や月々の発育測定の実施等、園児の健康管理に十分配慮した。 ・ 伝染性の疾患の流行時には、園医・保護者と連携を取り、抑制対策に力を注いだ。
(4) 安全管理	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災マニュアルが万一の災害に役立つよう常に見直しと確認に努めると共に、避難訓練や防犯訓練を通して、子どもの安全意識の高揚を図った。また、教職員一人一人が子どもを守る意識と行動を高めることに努めた。 ・ 防犯カメラ・インターホン対応・入園証の着用化等、外部侵入者対策を保護者と共に実施した。 ・ 降園時に、保護者が確実に子どもを受け取れるよう、安全の確認を徹底した。 ・ 子ども一人ひとりのアレルギー対応にも進んで取り組んだ。
(5) 特別支援教育	4. 0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配慮を要する個々の子どもの理解が進むよう、箕面市教委発達相談と連携を密にするとともに、保護者・教職員間で必要な情報提供を行い、連携・協力を図ることに努めた。 ・ 個別の指導計画の作成にも力を注いだ。十分活用できるまでにはいたっていない。 ・ 小学校への進級に関して、箕面市教育委員会・家庭との連携を密にしながら要配慮児童に対応することができた。 ・ 外部機関との連携の強化や研修の充実にも力を注いだ。

(6) 組織運営	5. 0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員で全園児を育てるという意識が浸透し、一人一人の子どもに応じた指導・支援・対応ができるようになってきている。 ・ フリーの教員を含めた学年協働による指導に努めた。学年内での打ち合わせ、隣接学年との協議の充実に加えて、園務分掌や主任の役割が適切に機能し、円滑な幼稚園運営が展開できた。 ・ 教育と管理部門の連携の合理性にも力を注いだ。
(7) 研修	4. 0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園内では日々研修・研鑽という意識で、学年を越え相互に指導技術を高め合うことができた。しかし教材研究や教材準備の時間が思うように確保できない問題が残る。 ・ リズム・マーチング・ピアノ・絵画・話し方について、外部講師による実技研修を定期的実施し、指導に役立てることができた。 ・ 初任者研修・支援教育研修以外の外部研修へも積極的な参加を促し、園内での伝達講習に繋げた。
(8) 情報提供	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の園だよりに合わせて、毎週のミニだよりを発行することで、園の方針や取り組み内容について保護者に積極的に情報を提供した。 ・ 携帯メール・ホームページを通して、幼稚園の活動の中身及び情報をこまめに提供することに努めた。
(9) PTA との連携	5. 0	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA 役員・委員の負担をできる限り軽減しながら、充実した PTA 活動が展開できるように努めた。また、多くの人に参加できる活動を目指した。 ・ 夕涼み会・親睦会は PTA の主導で運営できてきている。
(10) 子育て支援	5. 0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 満2歳児を対象にした、週2回の特別保育を年間計画のもとに実施。2コースとも常に定員一杯の状態を実施。 ・ 未就園児を対象に、月1回園を開放して種々の遊びを促したり、子育ての情報を提供したりした。
(11) 預かり保育	5. 0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の要望を可能な限り受け入れ、毎日7時30分～18時30分まで実施。 ・ 預かり保育の中身を吟味し、子どもがより楽しく参加できるように心掛けた。
(12) 教育環境整備	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四季折々の花が咲くよう、花壇・玄関前の植栽に力を注いだ。 ・ 菜園の整備に努めた結果、子どもたちは、ジャガイモ・さつまいもの収穫及びトマトやキュウリの栽培を楽しむことができた。 ・ 子どもの安全と使いやすさの両面を常に意識しながら、施設設備の整備に心がけた。暑さ対策の遮光ネットの活用にも努めた。 ・ 預かり保育室や八角形の保育室の床面・壁面の改装を行い、園児が気持ちよく生活できるように努めた。

☆自己評価 (5:十分に達成 4:達成 3:おおむね達成 2:要努力 1:要一層努力)

4. 総合的な評価結果

- ・ 本園がねらう子どもの意欲ややる気の発露につなげるため、四季折々の行事や日々の保育の中で、充実した体験活動を常に求めることに力を注いだ結果、いききと活動する子どもの姿が増えた。
- ・ 全園児280人が集う場では、静かに整然と話を聞いたり支持を受けたりする姿が当たり前のように見られるようになってきている。
- ・ 全教職員で全園児を育てるという共通意識のもと、一人ひとりの子どもを複数の目で見ることや、一人ひとりの子どもの思いを多くの教員が聞き取ることが、子どもを大切にすることにつながり、発達段階に応じて自分の思いをみんなの前で出せる子どもが増えてきている。
- ・ 保育室の床・壁・天井等の改修及びロッカーや整理棚等の整備に力を注ぎ、子どもが気持ちよく活動できる

環境づくりに全教職員で取り組んだ。

- ・ 本園の82年の伝統を守りながら、それぞれの行事や活動に斬新さを加えながら展開できた。
- ・ 防災マニュアルの再検討とともに、地震を想定した避難訓練を重視し万一の災害に備えた。また、玄関に4台の防犯カメラを設置し外部侵入対策を強化した。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 り 組 み 方 法
教育課程・指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園内の研修を深め、教育課程及び指導計画を見直し、今まで以上に園児の実態に応じた保育を展開していく。また、運動会・作品展・発表会の三大大行事のねらい及び進め方を再吟味し、保育内容のスリム化を図っていく。また、異年齢との交流活動をより活性化していく。 ・ 幼稚園と地域との連携を深める保育のあり方について探りながら実践していく ・ ひとり一人の子どもの理解を深めることに力を注ぎ、子どもが自分の思いが出せるよう努めていく。
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ あらゆる自然災害を想定した防災計画を確立するとともに、子どもの命を守るための避難訓練を計画的に実施していく。外部からの侵入者に対する防犯対策を強化する。関係各位との連携を強化する。
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園に関する様々な情報の提供・幼稚園公開の実施・園だよりやPTA情報などについてさらに充実していく。HPの積極的な活用を図っていく。

6. 学校関係者評価委員会の評価

全 体 の ま と め
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化が進み、また子どもの育つ環境が著しく変化する現在ですが、子どもは子ども同士の中で遊び、学び様々な体験を通して「知・徳・体・情」をバランスよく身につけながら「やる気」を培っていることが、自己評価から伺える。日々の教職員の頑張りに感謝します。 ・ 園児数の安定が順調な園経営につながっていると思われる。園児に対する先生方の対応や言葉かけが素晴らしく、子どもたちひとり一人が生き生きと輝いている。 ・ 四季折々の行事の中で、種々の体験を通して心豊かな子どもを育むことができているが、「当たり前前のが当たり前のようにできる子ども」を育てる意識が浸透されていることも素晴らしく、継続して欲しい。 ・ 全教職員で全園児を育てていくという理念をさらに浸透させ、地域・保護者からの信頼をより厚いものにして欲しい。 ・ 3大行事のスリム化に取り組まれているが、年間を通してそれぞれの行事が関連するような教育課程・指導計画を再編成することにより、新たな方向への展開が望まれる。 ・ 保護者アンケートや幼稚園の自己評価を通して、子どもの育つ過程や円滑な幼稚園運営が進められていることが伺えるが、現状にとどまることなく、常に改善に取り組む姿勢で、質の良い環境提供が望まれる。 ・ 子どもが小学校入学に際して、滑らかな連続となるよう今の保育を続けて欲しい。